

2023年7月7日

各 位

JX金属株式会社

電気銅のカーボンフットプリントの算定と、算定結果の第三者保証取得について

JX金属株式会社(社長:林 陽一、以下「当社」)は、当社グループの拠点で生産された電気銅のカーボンフットプリント(Carbon Footprint of Products, CFP)を算定し、その結果について、日本の銅製錬事業者では初となる第三者保証を取得しました。これは、当社が昨年8月に発表した“サステナブルカッパー”^(※1)の進化と普及に向けた施策の1つであり、自動車、半導体・情報通信など多様な分野において必要不可欠である銅の「安定供給」と「ESGを重視した生産と供給」の両立に向けた取り組みとなります。





今回の取り組みにおいては、JX金属グループの佐賀製錬所および日立事業所の一連のプロセスで2021年度に製造された電気銅について、Cradle to Gate(原材料調達から出荷まで)の電気銅1kgあたりの温室効果ガス排出量を、主として国際的な算定・報告の基準のひとつであるGHGプロトコルに則って算定するとともに、その算定結果について、第三者認証機関であるDNVビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社より保証を得たものです。

今後、当社グループが生産する電気銅のお客様を対象に、算定結果の開示を行う予定です。これに加え、このたびの算定結果を踏まえ、マスバランス方式^(※2)を用いた低CFP・高リサイクル率などの環境価値の高い電気銅の供給について、グリーン・イネーブリング・パートナーシップ^(※3)に参加する各企業との間で協議を進める予定です。

今後も当社は先端素材、金属製錬、リサイクル、資源開発の一貫した事業運営の中で、“サステナブルカッパー・ビジョン”で掲げる様々な施策を通じ、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

以上

※1 「サステナブル銅・ビジョン」の詳細は、2022年8月3日付プレスリリース「[「サステナブル銅・ビジョン」の策定について](#)」および同リリース別紙「[サステナブル銅・ビジョン JX金属が目指すサステナブルな銅の姿](#)」をご覧ください。なお、同ビジョンでは、以下の4つの施策を推進する姿勢を掲げています。

<p>1 CFPの削減</p>  <p>鉱石の採掘や輸送等のバリューチェーンに関連するCFPの削減</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 鉱山で使用する建機の電動化 ● 再生エネルギーの利用 ● 輸送の効率化・最適化等 	<p>2 リサイクル比率の向上</p>  <p>銅製品のリサイクル原料比率を高める技術の開発と原料集荷体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ● リサイクル原料処理に関わる技術開発 ● リサイクル原料の増集荷に向けた設備能力の増強等
<p>3 責任ある調達とその他施策の推進</p>  <p>サステナブルソーシングを含めた幅広いESG施策への取り組みと認証取得</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地球環境保全、人権、地域社会貢献等を配慮・促進する施策の推進 ● ICA (国際銅協会) の定めるESG基準を満たすCopper Mark*等認証の取得推進 	<p>4 グリーン・イネープリング・パートナーシップの形成</p>  <p>サステナブル銅の進化と普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ● サステナブル銅の普及に向けて協働いただける企業等とパートナーシップを形成し、脱炭素社会・循環型社会への移行を加速 ● パートナーとの製品・スクラップ回収、原料再利用、共同技術開発の促進等

※2 ある特定の性質を持つ原料の投入比率に応じて、製品の一部を「その原料に由来する特性を持つ」と見なす考え方です。

※3 「サステナブル銅・ビジョン」で提唱している、銅の生産・利用・リサイクルに関わる企業等との、脱炭素・資源循環の促進を目的とした業種横断型のパートナーシップの事です。

参考;製品のカーボンフットプリントの算定に関する情報

対象製品	電気銅
生産期間	2021年4月1日～2022年3月31日
生産場所	JX金属株式会社 日立事業所 及びJX金属製錬株式会社 佐賀関製錬所
対象のライフサイクルステージ	Cradle to Gate (原材料調達から出荷まで)